

大阪女子学園短大 ○北村トモエ 岐阜教育大 中野刀子 夙川学院短大
橋 喬子 県立新潟女短大 山崎光子 東京家政学院短大 今井弥生

目的 国際化、情報化社会の急変の中で、人生80年時代を迎えた。昭和62年厚生省の発表によると、日本人の平均寿命は男75.2歳、女80.9歳に達し、人口の高齢化は確実に進行しつつあり、長寿社会の到来に伴う高齢者の消費者問題は必要さを増している。

従来、色彩嗜好を左右する原因として、年齢、性別、地域差が必ずあげられているが、老年期のデータは少ない。1報に引続き、性別主成分分析をおこない、男・女における色彩感情要因を考察し、検討したので報告する。

方法 1) 対象 2) 調査時期 3) 手続、場所 4) 主成分分析 1～4報と同様。

群	男	女	65～74		75以上		職業有・無		未・既婚		1人夫婦他と同居			一戸建	集合
1	147	325	321	151	106	366	18	454	67	55	350	398	74		
2	272	459	506	225	72	659	28	703	182	246	303	579	152		
3	139	426	332	233	95	470	29	536	166	167	237	446	119		
4	89	151	160	80	52	188	6	234	39	71	130	209	31		

結果 性別イメージ・プロフィールは上位群は同様であるが、他は差異が認められた。相関は“好きなどころよい”、“若々しいと新しい”は男・女とも強い。因子負荷量では、第1因子の楽しい、第2因子の淡い、地味なは共通であるが他は異なり、第4因子までの累積寄与率が男54.6%、女56.3%、軸の解釈も男・女によって微妙であるが、概して男は活力の因子、女は洗練された美的因子に支配され、特に和服から受けるイメージと結び付け、強く影響されていることがわかった。